

「ふくろいスマイル座談会」開催概要（最終報告）

～対話を通じて、未来のふくろいを考える～

市では、第3次総合計画「地域編」及び都市計画マスタープラン「地域別構想」の策定にあたり、市長が自ら地域に出向き市民の声を聴く「ふくろいスマイル座談会」を、9月から10月にかけて開催しました。

今回、10月開催の7地区を含め、全14地区分の開催概要を報告いたします。
(9月開催の7地区分は、中間報告済みです。)

座談会では、市長がまちづくりに対する想いを語るとともに、市民の皆さんから地域に対する想いを伺い、地域の将来について行政と地域住民がともに考えるキックオフとなりました。

当日は、まちづくり協議会の役員はもとより、中・高校生など、老若男女、多くの方に参加いただき、人口減少や少子高齢化、子育てや防災・災害対策など様々な分野で意見交換を行いました。

今後は、土地利用の方向性を定める「都市計画マスタープラン」の見直しや新たな総合計画の策定のほか、各まちづくり協議会の「独自の活動方針」の整理など、地域の皆さんとの意見交換会やワークショップなどを通じて、地域の将来について一緒に考えていきます。

座談会の開催状況は、「市ホームページ」や「コミセンだより」などで情報共有してまいります。

令和6年11月
企画政策課

「ふくろいスマイル座談会」開催状況 〈令和6年9月開催分〉

まちづくり協議会	日時	参加人数	主な意見 (※▶座談会、▷ご意見ご提案用紙)
①三川	9/14(土) 10:00-11:40	43人 中学生も参加	▶地域医療体制に関する今後の展望（中学生から） ▶北部地域のにぎわいづくりの必要性 ▶情報弱者への配慮 ▶農地の利用 ▶地域公共交通の充実 ▶豪雨災害からの復旧や今後の見通し ▷子育て世代への情報発信の必要性 ▷地域と企業との災害協定内容の確認 ▷自治会活動支援のあり方
②袋井東	9/14(土) 13:30-15:15	59人	▶大和ハウス跡地を含む土地利用 ▶都市核と集落拠点をつなぐネットワーク構築 ▶指定避難所に公会堂等を加えること ▶災害時の安否確認 ▶地区内人口減少への対応 ▷自治会組織の強化 ▷大災害に備える平時のコミュニケーションの必要性 ▷遺跡の発掘と継続性 ▷まちづくりのための人材育成 ▷第2次総合計画の振り返りと広報・PRの必要性
③今井	9/14(土) 19:00-20:40	30人	▶公共交通の確保 ▶静岡理工大学市民講座の充実・発展 ▶幼少期からの職業体験 ▶PTA組織の見直し ▶治水対策としての田んぼダムの活用 ▶広域的な災害に関する消防団を含む情報連携の必要性▷シニアクラブ結成の必要性 ▷アパート住民の防災対策 ▷タブレット学習の活用と工夫 ▷第2次総合計画の総括とまとめ ▷自治会役員や民生委員の選任に苦慮 ▷市全体を俯瞰した計画づくりの必要性 ▷荒廃農地の解消対策 ▷内水氾濫を想定した治水対策の必要性
④袋井西	9/19(木) 19:00-20:30	37人 高校生も参加	▶旧東海道の活性化 ▶今後の外貨獲得（税収確保）の方策は ▶空き店舗対策の必要性 ▶人が集まる場所や商業店舗などの必要性 ▶豪雨災害など新たな災害への備え ▶袋井西のまちづくりプランを策定済み ▶第2次総合計画の振り返りが必要 ▷まちおこしや防災への提案
⑤浅羽南	9/22(日) 10:00-11:40	66人	▶産業廃棄物に関する土地利用の規制誘導及び独自条例化 ▶国道150号線の実現性 ▶若者の地域内人口を増加させるための方策 ▶海プロの進捗状況と完成後の運営 ▶給食残渣の堆肥化等に関する取組 ▶浅羽南小学校の統廃合に関する今後の方向性 ▷空き事業所バンクの取組 ▷チャレンジ&スマイル精神を広める方策 ▷地区の課題（過疎化、海岸浸食、空き家・空き地）に対する対応
⑥袋井南	9/29(日) 10:00-11:40	38人	▶小野田地区の治水対策 ▶避難所の環境改善の必要性 ▶応急仮設住宅の用地確保 ▶イノシシ被害と対策 ▶自動運転など新たな地域交通の必要性 ▶図書館での住民票交付などサービス領域の拡張 ▶スポーツツーリズムの有用性 ▶見守りサービスの体制強化 ▷原野谷川の堤防草刈り
⑦浅羽西	9/29(日) 13:30-15:15	38人	▶浅羽西幼稚園の今後の方向性 ▶高齢者の生活支援の充実強化、生活支援ネットワーク ▶複合災害対策の充実強化 ▶多文化共生社会における地域課題（ごみ処理、無断駐車など） ▶二瀬橋など斜面の除草活動、ラジコン草刈り機の追加 ▷市デジタル推進計画 ▷人口減少問題
7地区	90～105分 (平均100分)	計311人 (平均44人)	



袋井西



袋井市民憲章
1. 多岐多岐の 住みやすさをつくり出す
2. 心と体の健康を 増進させる
3. 働きやすさを 創りだす
4. 観光を推進し、文化の向上に努める
5. 防災を推進し、美しい環境をつくり出す



今井



浅羽西



袋井南



三川



浅羽南



袋井東

ふくろいスマイル座談会 ①三川地区

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 三川地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月14日(土)10時～11時40分
場所	三川コミュニティセンター 【参加人数:43人】
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から

- 子育て世代がいなくなってしまうのではと懸念。地域の子育て環境の情報が、市内外の子育て世代に伝わることに加え、三川で子どもを育てたいと思う家族が増えると良い。
- 発災時の一時避難地を、三川地区と企業間で協定書を締結している。協定書内の費用負担について確認願いたい。
- 自治会活動支援のあり方の一つとして、消防団への支援のあり方を検討していただきたい。
- 市の計画になじみのない市民や中学生にも分かりやすい説明をしてもらいたかった。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

健康長寿で暮らしを楽しむまち

- 三川地区の地域医療について、今後の展望を聞きたい。
⇒聖隷袋井市民病院に総合健康センターを併設し、健康や介護の拠点となっている。建て替えも検討する中で、地域医療との連携についても考えている。

活力みなぎる産業のまち

- 北部地域のにぎわいに資する施策がみえてこない。
⇒森町袋井インター通り線の整備を促進中。整備が完了すると市外からの来訪者にとっても利便性が増す。沿線エリアではにぎわいの創出や産業誘致につながることを期待できる。

市民がいきいきと活躍するまち

- 情報弱者（特に高齢者）への配慮が欲しい。
⇒高齢者が講師となり年齢が近い人同士で教え合うことで効果が出ている。参考にしたい。

快適で魅力あるまち

- 農業者が高齢化し、放置された温室も散見される。農地の宅地利用や太陽光発電の設置などの利用を積極的に図ってほしい。
⇒耕作放棄地については、国としても農地の保全と開発のバランスを取っていく方向性を出しており、農地から用途変更することはハードルが高い。
- 敷地川に架かる橋で崩落している橋がいくつかある。
⇒三川地区の方と情報交換を密にしながら検討をしたい。
- 高齢者の移動手段としてかわせみ号がある。かわせみ号をもう1台、追加してもらえるとよい。
⇒法体制などが変わり、新たな交通手段がでてくれば、その手段を検討していく。複数台の導入が必要であれば検討をしていきたい。

安全・安心に暮らせるまち

- 自助・共助・公助は重要だが、自助について市民の意識とのミスマッチがある。
⇒三川地区は以前から頑張ってもらっている。それ以上に社会的な必要性が増しているので、更に伸ばしてもらえればと思う。
- 住宅の浸水もよくある。敷地地区の河川改修が進み、水位が恒常的に上昇しているところもあり危険を感じる。
⇒水災害が多く発生し、対策が追いついていないことをご理解いただければと思う。
- 高台への避難所について、車で行けるような整備をしてほしい。また、企業や病院と連携して避難所を確保してほしい。
⇒避難所については、地域と相談しながら確保できるように努めていきたい。
- 道路のセンターラインや横断歩道、路側帯などの白線が消えている箇所が多数見受けられる。
⇒県とも連携しながら、区画線の引き直しなどを進めていきたい。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 袋井東地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月14日(土)13時30分～15時15分
場所	袋井東コミュニティセンター【参加人数:59人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



- 「ご意見・ご提案」用紙から
- 自治会組織が弱体化している。行政との協働を市内全域に広げるべき。
 - 平時からのコミュニケーションが災害時にも有用。防災と福祉の仕組みづくりに行政も参加を。
 - 大和ハウス跡地を公園や道の駅に。
 - 坂尻遺跡の発掘継続を考慮してほしい。
 - 愛野駅・エコパ周辺で多くの人が集える場があるとよい。
 - まちづくり人材の育成を進めてほしい。
 - 計画のPDCAの見える化を強化すべき。
 - 地区の歴史や伝承文化のPRを強化すべき。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

- 快適で魅力あるまち**
- 大和ハウス跡地は広大な土地なので、トラックターミナルとか道の駅とかまとめていただきたい。
 - 大和ハウス跡地を商業施設にするなど、地域の人口確保と利便性の維持を図る計画も進めてほしい。
⇒大和ハウス跡地は民地であり民間の考えが最優先される。しかし、行政として、地域の代弁者として、対話を進め、活力創出の方向になるように関わっていく。
 - 袋井東地区では、地区としての構想をまとめ地域の開発を提言している。
⇒地域の生き残り策を考慮して地域をどうするかを検討させて欲しい。
 - 夏の暑さ対策として、市が率先して市の駐車場をアスファルトから芝にしてはどうか。
⇒雑草の問題などもあり、現実的には難しい。暑さ対策として、郵便局などと連携してクーリングシェルターの協定を結んでいるので活用いただきたい。

- 安全・安心に暮らせるまち**
- 公会堂を指定避難所として活用できないか。自宅から近い場所にあり、今の避難所が災害状況により受け入れが難しい場合に有効だと思う。
⇒公会堂を指定避難所にすると避難所数が膨大になる。指定避難所は最低限の食糧や安全な場所を維持するところであり、また、他の避難所に物資を届けるといった意味があるので、多くを指定できないことをご理解いただきたい。
自宅避難の方や他の避難所などにも支援の手が届くような形にできればと思うのでご協力をお願いしたい。
 - 災害時の初動活動は安否確認となる。市では、居住人口の実態、実数を把握しているのか。
⇒行政でも把握したいが、発災時、どこに誰が何人いるかまでは分からない。携帯の電波の有無がわかる技術があるので、その活用を模索しているところである。

- 市民がいきいきと活躍するまち**
- 大和ハウスが移転するが、文化財や参道は保存をしてもらいたい。
⇒貴重なお宮の参道があるのは承知している。鳥居も含めて保存するよう要望として挙げている。
 - 袋井東地区は立地条件はよいが、人口減少率が高い。集落拠点の具体的な構想、取り組み方針が弱いと感じる。最低限の人口確保と利便性の維持を図る必要がある。
 - 袋井東地区は人口が減少しているが、他の地区との違いを教えてください。
⇒土地区画整理事業を行った地区で人口が増加している。袋井東地区では、ミニ開発はあるが区画整理は行っていないため、他地区と人口増減に差がでている。人口は増えればいいというものでもなく、都市機能と一緒に議論していく必要がある。地域づくりにご協力をいただきたい。

ふくろいスマイル座談会 ③今井地区

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 今井地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月14日(土)19時～20時40分
場所	今井コミュニティセンター【参加人数:30人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
	6 閉会



●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

快適で魅力あるまち

- コミュニティセンターを起点とした新しいモビリティを運行してはどうか。
⇒市内はバスやデマンドタクシーをはじめ、数種類の交通を導入している。日本版ライドシェアといった制度もできており、法制度の変更も見据えつつ、新しい地域公共交通を検討していきたい。

市民がいきいきと活躍するまち

- 静岡理科大学の市民講座は有意義な講座であり、継続してほしい。長時間の講座として、可能なら学位につながるとよい。
⇒リスニングやリカレントなどが近年は話題となっている。地域ニーズを探り、地域の学びの場として提供できないかを、静岡理科大学と相談していきたい。

健康長寿で暮らしを楽しむまち

- 少子高齢化が進展している。医療費や介護費などはうまくいっているのか。
⇒健康寿命を延ばす取り組みを進めており、また、介護状態になっても安心して暮らせる状況を目指している。聖隷袋井市民病院に総合健康センターを併設し、家庭医療との連携のあり方なども検討しており、所得の多寡に関わらず、安心して暮らせる取り組みを進めていきたい。

子どもがすこやかに育つまち

- 掛川市では小学生に起業体験をさせている。袋井市でもできないか。
⇒次世代の育成に向けた活動としてよいと思う。そのような活動が袋井でもできればと思う。
- 市PTA連絡協議会の事務局を、市の職員が引き受けることはできないか。
⇒本来、PTAは親、学校、地域が一体となって教育環境を良くしていく活動をするべきと考えている。その事務局を行政が担うのは本来の趣旨ではないと思う。

- ### 「ご意見・ご提案」用紙から
- シニアクラブの結成を指示してほしい。
 - アパートの住民に対する防災対策について市の考えを教えてください。
 - タブレット学習を利用した、不登校児童へのリモート学習指導はできないか。
 - プラスチックの回収を増やせないか。
 - 袋井中学の通学路で信号がなく危険な箇所を解消してほしい。
 - 第2次総合計画の総括をしっかりとやる。
 - 自治会役員・民生委員の引き受け手がない。自治会内だけでは解決できない。
 - 市全体を俯瞰した計画づくり、耕作放棄地対策、内水氾濫を想定した治水対策をお願いしたい。
 - 袋井をにぎやかに、今井にもにぎやかなプランを…今井地区全屋台が深見橋の上に集合したらどうでしょうか。

- ### 安全・安心に暮らせるまち
- 三川地区の敷地川の氾濫や新屋橋の崩落など市内で収まらない災害がおきている。市外の広域的な災害情報、復旧の情報を入手しやすくできないか。
⇒市も該当市に問い合わせをして把握している状況。定期的に情報を把握できるものがあれば検討していきたい。
 - 開発が進むことにより排水路の増水も懸念される。地区内の水田を活用して田んぼダムを拡げてはどうか。
⇒田んぼダムの効果はあると思っている。令和4年度から静岡理科大学と連携して研究を進めている。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 袋井西地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月19日(木)19時～20時30分
場所	袋井西コミュニティセンター【参加人数:37人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



「ご意見・ご提案」用紙から

- まちおこしと防災、袋井型ウーバー・イーツに関する提案

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

活力みなぎる産業のまち

- 袋井駅南や愛野駅は見違えるようになった。旧街道沿いも活気のあるまちになったらいいと思う。
⇒旧街道では古い街並みを活かしつつ、リノベーションなど、スタートアップ企業が集まれる空間づくりなどを考えていきたい。
- これからの袋井市は外貨をどのように稼いでいくのか。知恵を絞って一緒に考えていければと思う。
⇒にぎわい創出には経済活動が必要。北部では森町袋井インター通り線が整備中であり、これを地域の活力創造や産業活性化に繋がればと思う。
- 閉店した店舗に新しい店が入らないことも見受けられる。店舗の新陳代謝をどうしてくかが大事である。
⇒空き店舗活用の補助事業を行っている。また、職員によるアドバイスなど、ビジネスマンが新たな一歩を踏み出せる支援も行っている。空き店舗などの情報発信を積極的にできる環境づくりも行っている。
- 人が集まりやすい場所に商業施設が欲しい。
⇒駅前に商業施設を誘致するなど希望に応じていきたい。若い人の移動手段が限られるので、いろいろ楽しんでもらえる環境を作っていきたい。

安全・安心に暮らせるまち

- 地震やゲリラ豪雨など10年前には想定していなかったことも頻発している。このような考えも次期総合計画には入れるべきだと思う。袋井西地区には河川が5つある。液状化や水害などに対してどう考えているのか。
⇒過去のさまざまな災害から、建物の耐震化や命山・防潮堤の整備、自助・共助の大切さなどを学んで対策を行ってきている。これまでの経験を活かしながら、力をあわせ、情報を共有し、次の世代に伝えていきたい。
- 年2回の防災訓練が、毎回、同じような内容、日程でいいのか疑問。避難所運営の訓練をするなど、毎年、目標をたてて実施した方がよいのではないのか。
⇒避難所運営の訓練や事前情報なしで訓練するなど、現実的な防災訓練を考えていきたい。

市民がいきいきと活躍するまち

- 袋井西地区では、彩雲プロジェクトでまちづくりプランを作ったばかり。総合計画の地区別計画は『まちづくりプラン』を踏襲するようお願いしたい。
⇒袋井西地区はまちづくりプランがあるので、それを踏襲した形で整合性をとっていく。
- 第2次総合計画の振り返りはしていないのか。
⇒毎年、取組みを整理し、年ごとに進捗と達成度合を振り返り、議会にも報告をしている。また、審議会でも強み弱みを整理して次期計画に生かすようにしている。
- 総合計画と都市計画マスタープランとの関係性はどうなっているのか。
⇒総合計画が市の最上位計画。土地利用について、都市マスタープランと並行して見直すことで、整合性を図っている。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 浅羽南地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月22日(日)10時~11時40分
場所	浅羽南コミュニティセンター【参加人数:66人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



- ### 「ご意見・ご提案」用紙から
- 海のにぎわい課の設置と、空き事業所バンクの取組をして欲しい。
 - チャレンジ&スマイルの精神を広める方策が欲しい。
 - 出来るだけ近くの高い所へ避難するための案内看板が欲しい。
 - 中学校の存在意義を強調したらどうでしょうか。
 - 地区の課題である過疎化、海岸浸食、空き地・空き家への対策をお願いしたい。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

快適で魅力あるまち

- 廃棄物処理のヤード等の土地利用の規制や誘導について、今後の展望を聞きたい。
⇒住民の方から意見を伺い、事業者に引き続き適切に指導していきたい。また、法規制等併せて意見交換していきたい。
- 土地売買の規制・取締条例がないため、今後の対応を聞きたい。
⇒浅羽南地区で規制・取締条例が必要であれば地域と意見交換していきたい。
- 国道150号バイパス整備促進事業の進捗状況を教えてください。
⇒国道150号バイパスは、期成同盟会で協議しており、海側の整備については、具体的なものは現段階ではない。磐田市から伸びている道をどのように整備するのか引き続き関係市町、県の方と協議をし、地域の方にお伝えしていきたい。
- 海の賑わいプロジェクトに豊沢の丘公園のような沢山の子どもを呼べる施設を作ってほしい。
⇒子育て環境を整え、賑わいをつくり、子どもたちが安心して集える場所の提供、それに伴って人口増が確実に実現できる場所を目指していきたい。
- 海の賑わいプロジェクトの地元の方に対する説明会はどうするのかを聞きたい。
⇒必要な情報はタイムリーにお知らせする。今年度末にはプレオープニングのイベントを予定しており、地域に案内していきたい。
- 海の賑わいプロジェクトの維持管理はどうするのかを聞きたい。
⇒維持管理は、今後整理していく。

活力みなぎる産業のまち

- 野菜残渣の堆肥化事業を市に対応してもらっているが、高齢でこの先できなくなるので、市として組織化し、仕組みづくりを考えてほしい。組織ができた暁には、市内飲食店、また家庭から出る生ごみ等にも対応してほしい。できた堆肥は土づくりを兼ね耕作放棄地へ投入し、将来、農業を志すという人が出てきた場合には、場を提供し、活躍してもらいたい。
⇒折衷案のようなものも含めて、実現可能なものがないのか、引き続き担当も模索するように働きかけ、何か方策がないのか、検討していきたい。

子どもがすこやかに育つまち

- 小学校の合併など噂を聞きくが、どうなっているか知りたい。
⇒教育施設の再編は具体的に正式に取り組んでいるものは無いが、公立幼稚園の再編は着手をしていかなければならないという議論は始まっている。施設がどうあるべきなのか、良い施設の在り方を考えてきたい。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 袋井南地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月29日(日)10時～11時40分
場所	袋井南コミュニティセンター【参加人数:38人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
	6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から

- 原野谷川の堤防の草刈り(睦橋から高西橋の河川敷側約450m区間)毎年要望書を提出しているが実行されていない。枯草化する前に対応願いたい。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

安全・安心に暮らせるまち

- 小野田地区は、水災害が多い。ポンプや流域治水対策を考えてほしい。
⇒ポンプ能力アップは必要。流域治水対策も必要と考えている。樋門の調査改修を行っていく。避難の意識も高めてもらいたい。
- 避難所の環境整備改善についての取組は。
⇒ダンボールベッドや冷暖房、プライバシー確保のパーテーション等、時間がかかるが整備していく。自宅でも確保して欲しい。
- 応急仮設住宅の用地確保のについて聞きたい。
⇒応急仮設住宅の配置計画で対応していく。市内で76か所、袋井南中学校区では15か所の候補地がある。
- イノシシ被害への市の対策について聞きたい。
⇒猟友会の協力で箱罠（オリ）を仕掛け、捕獲している。今後は、捕獲確認の省力化の為のセンサーを付けるなど、デジタル技術も活用した捕獲を検討している。

快適で魅力あるまち

- 高齢化が進んでいるが将来的に自動運転や無人バスなどの計画はあるか。
⇒市内で、地域タクシー等6種類の地域公共交通を実施しているが最適解がない。現時点では、法整備が不十分なライドシェアだが、今後の動向に期待してもらいたい。
- 地域内にある図書館はありがたい。ワンストップサービスや各種書類の申請等行政サービスの提供や、防災対策で活用できないか。
⇒「まちじゅう図書館」の取組を進め、使いやすいデジタル化で、身近な図書館としていく。行政サービスの提供や災害対策については検討する。


活みなぎる産業のまち

- 交流・賑わい創出のため、インバウンド対策やツーリズムへの注力が必要では。
⇒本市は、宿泊機能の強化に加え、エコパなどの集客力を活用した観光客の取り込みが必要。スポーツ協会では、旅行業も取得していただいたので、連携した取り組みをしていきたい。
- 駅前区画整理事業から35年が経過、高齢者や一人世帯、空き家・空き店舗も増加、自治会活動も低下してきている。
⇒若く起業したい人と連携し、空き家・空き店舗の活用に取り組むこと等を検討中。

健康長寿でくらしを楽しむまち

- 一人暮らし高齢者が多く、孤独死も発生している。市の見回り頻度はどのくらいか。
⇒民生委員が独居老人を把握しており個別訪問をしていただいている。社協や市内4カ所の地域包括支援センターの皆さんが連携して、見回りや生活支援対応をしていただいている。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 浅羽西地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月29日(日)13時30分～15時15分	
場所	浅羽西コミュニティセンター【参加人数:38人】	
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答	
	5 意見交換 「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会	

●**当日の意見交換の主な内容**（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

子どもがすこやかに育つまち

●幼稚園児数が減少し不安、少人数のメリットもあるが、多くの出会いも大切な時期。どのような対策をとっていくのか教えてほしい。
⇒現在、幼稚園のあり方について検討している。全国的には、保育園・こども園化が進んでいる。子どもたちにとって何が大事なのかを考えることが最も重要。しっかり議論させていただきたい。

健康長寿で暮らしを楽しむまち

●高齢者対策は十分だと言えない。これまでとは違う高齢者対策を次期計画には入れてほしい。
⇒地域の方々を地域で支える生活支援ネットワークは理想的なカタチ。他の地区でも実施したり、導入を検討している地区もある。市は可能な限り必要なサポートを行っていく。

安全・安心に暮らせるまち

●今後の複合災害に対してどのように整備していくのか（特に洪水と大規模災害への対策）を聞きたい。
⇒大規模災害に対して、行政ができるインフラ整備対応は限界との指摘もある。絶対に安心できる設備としての整備は現実的に難しい。そのような中では、まずは“自助”各自が自分の命を守ることが大切。勿論、行政の責任は果たしていくが、皆さんにも災害に対する備えをしていただきたい。

●多文化共生社会が進む一方、迷惑行為（ゴミ処理や無断駐車、騒音等）も発生している。市や県、警察署にも要望書を出している。自治会で対応できるレベルを超えているので、市から警察等への対応をお願いしてもらいたい。
⇒自治会の皆さんには、大変なご苦勞をかけていることが分かった。市としても、警察など関係機関にはきちんと伝え対応する。

「ご意見・ご提案」用紙から

- 袋井市デジタル推進計画について
広報5月号の記事のみでは、計画の推進体制、完成後の運用体制、ITスキルをもった人材の活用、職員のセキュリティに対する意識レベルや経費等も含め全体像が見えない。
- 人口減は日本の人口問題
市全体では人口増とのことだが、地域の若者は確実に減少している。市のレベルで出来ることをやって欲しい。
- 座談会は期待外れであった

市民がいきいきと活躍するまち

●二瀬橋付近の除草をボランティアで行っている。自分の地域は自分たちで美しくしていきたいが、高齢化も進み、作業が少しでも安全にできるようラジコン草刈り機を、今後も継続して貸してほしい。ラジコン草刈り機の追加や、土日の活用も検討していただきたい。
⇒地域の方に地域を支えていただき市としても大変感謝している。草刈り機の週末利用については、検討し担当課からお返事させていただく。

「ふくろいスマイル座談会」開催状況 〈令和6年10月開催分〉

まちづくり協議会	日時	参加人数	主な意見 (※▶座談会、▷ご意見ご提案用紙)
⑧浅羽東	10/19(土) 10:00-11:30	23人	▶子どものスポーツ環境の整備検討 ▶学校活動予算減少と授業への影響 ▶小中学校体育授業の暑さ対策のための体育館へのエアコン導入 ▶凶悪事件の多発と警察と連携した防犯対策 ▶中東遠総合医療センター運営経費に充当している袋井市の予算額 ▶市の人的財産を活用した外国人との交流 ▶子どもの屋外・屋内における遊びや体験の場と「あそびの杜」の必要性 ▶浅羽地区における都市計画税の使途
⑨豊沢	10/19(土) 19:00-20:30	28人	▶自治会の高齢化と存続の危機感 ▶高齢社会における移動式の投票車や検診車の導入検討 ▶自治会における個人情報の取扱い ▶海のにぎわい創出プロジェクトの活用と袋井市の全国発信 ▶荒廃農地の広がり農振農用地の除外 ▷誇れる眺望を活かす工夫 ▷豊富な湧水の利活用 ▷堆肥作成時の適切な対応と指導 ▷豊沢の呼称▷古井戸の災害時の利活用 ▷小川町の浸水被害
⑩袋井北	10/22(火) 19:00-20:40	50人 周南中学提案有	▶久野城址の魅力発信(周南中学生からの提案) ▶市のシンボルである市旗の掲揚 ▶おいしい給食の取組 ▶人口減少時代にあって市の人口維持の要因 ▶中学校部活動の地域移行と活動場所確保、指導者報酬・指導レベル ▶防災対策としての事前復興計画策定の取組 ▷外国人の安否確認 ▷自治会備蓄品の必要量の設定 ▷地域活動への中高生のチカラ活用 ▷借家の家具固定の検討 ▷地域資源を活かしたウォーキングコース整備
⑪笠原	10/23(水) 19:00-20:40	52人	▶地元の子どもが地域の幼保園へ入園できるように ▶笠原地域への人口誘導策 ▶高齢者支援と若者世代の負担軽減 ▶人生100年時代、80歳まで働ける環境づくり ▶都市拠点までの交通手段の確保 ▶免許返納後の高齢者の移動手段の確保 ▶三沢川の氾濫対策 ▶三沢川のハザードマップ公表の進捗 ▶地域づくりの理念は「これから地域を担う若い方々が元気よく、暮らしがいをもって住めるようなまちづくり」▷誰もが働きやすい包摂社会の実現 ▷デンマーク牧場の観光活用 ▷駐在所の存続 ▷少子化・高齢化対策のモデル地区づくり
⑫浅羽北	10/26(土) 10:00-11:40	30人	▶黄色いタペストリーによる災害時の安否確認と市全体への拡大 ▶災害時要支援者の避難等ソフト対策の必要性 ▶消防団活動に必要な予算の検討 ▶アプリによる災害時安否確認や高齢者見守りへの活用 ▶若い世代の各種会議やイベントへの参加策 ▶コロナ後のコミュニティと賑わいの回復 ▶現総合計画の成果と課題の明示と座談会説明資料の改善 ▷自治会活動における役員の廃止を含めた整理 ▷敬老の記念金品の検討 ▷安全安心視点での通学路の検討 ▷あそびの杜の再考 ▷空き温室の利活用検討 ▷避難路の橋梁耐震診断 ▷御城印の製作
⑬山名	10/27(日) 10:00-11:40	42人	▶不審者情報の迅速化と防犯カメラ設置 ▶災害時のボランティア登録の簡素化 ▶中小河川の氾濫リスク ▶浅羽海岸の魅力とイベント参加者数 ▶安全性の高い道路整備 ▶自治会への加入促進 ▶小規模自治会の現状把握と存続支援 ▶河川の草刈り作業 ▶あそびの杜へ防災学習機能を ▷道路整備による交流と活性化 ▷北部地域の活性化 ▷河川流下能力向上対策 ▷災害拠点施設の設備充実 ▷防犯カメラ設置 ▷自治会負担軽減
⑭高南	10/27(日) 13:30-15:15	21人 袋井南中学提案有	▶水害対策が地区の第一課題、前倒し対応を ▶耕作放棄地対策と貯留機能の確保 ▶ポンプ場完成までの水路の通水断面確保対策 ▶ポンプ場の定期点検 ▶水害安全安心宣言 ▶デジタルを活用した情報発信とスキルアップ ▶部活動の地域移行への対応方策 ▶介護保険制度改正による困りごと ▶大和ハウスの跡地利用 ▶袋井駅南北出口名称(秋葉口、駿遠口)の活用 ▷まちじゅう図書館の推進と機能の充実 ▷事前復旧復興計画 ▷茶文化資料館の活用 ▷福祉の視点から施設・整備に関する提案(袋井南中学3年生からの提案)
7地区	90~105分 (平均98分)	246人 (平均35人)	



浅羽東



笠原



高南



袋井北



浅羽北



山名



豊沢

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 浅羽東地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月19日(土)10時~11時30分
場所	浅羽東コミュニティセンター【参加人数:23人】
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から
 ●提出はありませんでした。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

子どもがすこやかに育つまち

●子どもたちは、暑さ対策により、夏の日中の練習や試合が制限されている。夜間に練習したくてもナイター設備がある施設が少ない。民間などで照明設備と維持費が安価で、使用している事例があると聞いている。子どもたちの将来につなげるために、新しい発想でナイター設備を検討してほしい。
 ⇒部活動の地域移行など子どもたちの活動も大きく変わろうとしている時期。ナイター設備の整備が可能かどうか、確認・検討をしていく。地域のチカラを借りる部分が大きくなる。

●非常勤教員をやっているが、学校の予算が減り、授業で使うものが購入できない場合があり、授業もやりにくい。
 ⇒学校の予算は、人の面は県、施設面は市となっている。県と市の予算を確認する。

●猛暑日の体育の授業が運動場では出来ない。体育館にはエアコンがない。エアコンの導入を検討してほしい。
 ⇒体育館にエアコンを導入す場合には、断熱工事が必要となる。小・中学校合わせて16校あり、全ての体育館に導入となると大きな経費がかかる。市長会等の要望を通じ国や県と連携し、取り組みをしていきたい。

安全・安心に暮らせるまち

●関東地区で凶悪事件が多発しているため、県警と相談をし、厳重に防犯対策をしてほしい。
 ⇒行政の役割として、市民の生命財産を守ることは基本。行政としても、警察と連携をしながら地域の安全を守っていく。

健康長寿で暮らしを楽しむまち

●中東遠総合医療センターの運営経費に袋井市の予算がいくら使われているか知りたい。どのように使われているか分かりやすく伝えてほしい。
 ⇒中東遠総合医療センターに約7億円、聖隷袋井市民病院に約2億円。病院関係予算に約9億円を使っている。

市民がいきいきと活躍するまち


●袋井市の人的財産である、浅羽佐喜太郎（ベトナム）や鳥居信平（台湾）等を活用し、外国人との交流をしていきたい。
 ⇒行政としても、先人の功績に対する顕彰をはじめ、交流に対する理解と支援により、協力関係をつなげていく取り組みをしていきたい。

快適で魅力あるまち

●浅羽地区には、屋外に子どもが集まる場所や自然があるのに、浅羽支所の屋内にあそびの杜をなぜつくるのか。あそびの杜にお金を使わず、身近なところで遊びや体験の場を作れるのではないか。
 ⇒様々な議論をしながら計画を進めているところ。屋外でも屋内でも、両立できるのが地域の魅力になるようにしていきたい。

●浅羽地区で都市計画事業がほぼないのに、都市計画税があるのはなぜか知りたい。
 ⇒袋井市という枠の中での用途となることをご理解いただきたい。また、今後の都市計画事業も含めご納得いただく用途を検討していく。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 豊沢地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月19日(土)19時~20時30分	
場所	豊沢コミュニティセンター【参加人数:28人】	
内容	1 開会	
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ	
	3 市長あいさつ	
	4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答	
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など	
6 閉会		

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

市民がいきいきと活躍するまち

- 大通自治会は高齢化率が非常に高く、自治会の存続が危ぶまれている。早いうちに手をうってほしい。
⇒情報交換を密にし、支援できる部分は、支援させていただきたい。また、自治会や地域の生き残りや活性化のために意見をいただきたい。
- 高齢で運転に自信がなくなってきたので、選挙時の移動式の投票車と検診車の導入を検討してほしい。
⇒投票車は他の自治体で、導入されているところもあるので、コストや利便性を考え検討していく。また、検診車も参考にし、今後活かしていく。
- 自治会での個人情報の取り扱いについて、何がよくて、何がよくないのか知りたい。
⇒個人情報の取扱いについては、非常に複雑。法律の話と現実的な受け止め（市民感情）が違うのが課題である。自治会向けに個人情報の取扱い手引きを令和4年に作成しているが、職員でも解釈の違いがある。職員研修により、徹底してガイドラインを確認しながら対応していきたい。また、事例を作成中ですので、出来上がったらお知らせしていく。

快適で魅力あるまち

- 海のにぎわい創出プロジェクト（浅羽の海や海岸）をうまく活用し、袋井市の地域資源のアピールやキャンプ場、様々な店舗をつくり、地域内で循環できる場所、また、若者や家族連れがたくさん来る場所にして、袋井市を全国に発信してほしい。
⇒予算の許す限りやっていきたい。単発ではなくあわせ技で、新たな需要を生み出すために、様々なことをやり続けることが大切だと感じている。関係者の方々に協力をいただき、プロジェクトを進めていきたい。

活力みなぎる産業のまち

- 自治会内の農地（茶畑）が荒れているため、農振農用地の除外をして、青地から白地への転用手続きをしてほしい。
⇒農振農用地の除外は、国や県の厳しい条件をクリアしなければならない。都市計画マスタープランの地域別構想の検討の中で、地域の方と意見交換させてもらいたい。

「ご意見・ご提案」用紙から

- 誇れる眺望を活かす工夫を望む。
- 豊富な湧水（神長近辺）の利活用。
- 大量な肥料堆肥作成時における汚水流出に対する適切な対応と指導。
- 豊沢の呼称（「とよさわ」「とよざわ」）。
- 古井戸（掘抜井戸）マップを作成し、災害時の利活用を。
- 小川町の浸水被害について

（※ご意見ご提案内容のボリュームが大きいため、項目のみ掲載しました。）

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 袋井北地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月22日(火)19時～20時40分
場所	袋井北コミュニティセンター【参加人数:50人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



「ご意見・ご提案」用紙から

- 第3次総合計画期間内の事前復興計画の策定。自治会(地域)活動持続のため、地域に寄り添った市政運営。災害時の外国人住民の安否確認の適切な方法の協議と提示。
- 広報配布の負担軽減と市ホームページ等の活用。ラジオ難受信地域(国1バイパス北側)の解消。自治会備蓄品(食料・水)必要量の設定。
- 地域活動への中・高校生のチカラの活用。
- 借家における家具固定の検討。
- 地域にある「さわやかアリーナ」や「久野城址」を結びウォーキングコースの整備。

●当日の意見交換の主な内容 (※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました)

**周南中学生からの意見
総合学習での袋井について
の研究成果と市への提言**

- 久野城址の魅力発信
 - ①観光バスが入れる道の確保が必要、②袋井市は、日本一健康文化都市を掲げており健康と文化をつなげる取組が必要、③観光案内板が少なく感じる、④袋井の魅力の情報発信方法について模索が必要、⑤若い人たちが地域活動に参加することが重要
- ⇒郷土愛を育むことは大切なこと。こうした意見を核に地域と協働しながら活性化が進められれば良い。久野城址保存会には世代を超えた交流等をお願いしたい。

市民がいきいきと活躍するまち

- 公共施設等、様々な施設で市旗を掲揚してほしい。
- ⇒市章について愛着をお持ちくださることに感謝する。現実的には市旗の制作や掲揚にはコストや人工もかかる。出来るだけ多くの機会に掲揚していただく。

子どもがすこやかに育つまち

- おいしい給食について聞きたい。
- ⇒袋井市は、健康都市連合に加盟しており、この度、韓国で開催された会議に出席し、袋井市の学校給食の特徴である、地産地消、食育、栄養バランス、温かさ、陶器製の食器の使用等、世界一の学校給食を紹介、市の魅力発信をしてきた。

快適で魅力あるまち

- 袋井市の人口減少が抑制されているのは魅力があるためか。どういう努力、施策をしているのか知りたい。
- ⇒先人たちの努力の賜物。子育て環境、高齢福祉等のソフト対策、区画整理事業による住宅地の確保等ハード対策も計画的に実施してきた。こうした取組を継続実施してきたことが、今の成果となっている。

子どもがすこやかに育つまち

- 中学校の部活動の地域移行により、サッカー競技等は、活動場所、指導者の報酬等の費用問題や、指導のレベル感等も様々で懸念している。
- ⇒部活動の地域移行は、課題はあるが、地域の皆さんと受け皿を検討したい。活動場所の不足は認識しており、スポーツも文化活動も多くの方が楽しめる部活動の環境を整備したい。新しい部活動の姿を作っていきたい。

安全・安心に暮らせるまち

- 袋井の弱点は軟弱地盤、多数の家屋の倒壊も想定されている。被災からの早期復興につなげるため、事前復興計画の取組を進めて欲しい。
- ⇒能登半島地震を教訓に公助が届かない時に、自助や共助が大切。家具の転倒防止など、各家庭での防災対策も進めてほしい。市民と力を合わせ防災力を高めていく。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 笠原地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月23日(水)19時～20時40分
場所	笠原コミュニティセンター【参加人数:52人】
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から

- 地元の子ども園に入れないうちもがいる為に、PTAが成り立たなくなっている。出来れば地元優先で入園できるようにしてほしい。
- 誰もが働きやすい包摂社会の実現。デンマーク牧場の観光スポットとしての活用。地域の安全・安心を守る笠原駐在所の存続。
- 少子化対策・高齢化対策のモデル地区づくり。南海トラフ巨大地震から高齢者や子どもを守る対策。里山を元気にするための考え方の提案。

● 当日の意見交換の主な内容 (※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました)

子どもがすこやかに育つまち

● 地元のこども園に地元の子もが入れるようにしてほしい。
 ⇒ 通いたい園に通えない状況が発生しているのは把握している。待機児童を生じさせないことが第1優先ではあるが工夫していきたい。子ども園などのあり方も皆さんと検討していきたい。

活力みなぎる産業のまち

● 笠原への人口誘導策はどのような方策を考えているか。
 ⇒ 人口の増加には働く場所が必要であり、産業誘致に結び付けたいと考えている。産業がなければ人口も増えない、まちの発展はないと思っている。

健康長寿で暮らしを楽しむまち

● 高齢者をどう面倒を見ていくのか。若い人の負担を減らすことも必要。
 ⇒ 地域の人で助け合えるのが理想。笠原は生活支援ネットワークがあるので全市で進めていきたい。
 ● 国は80歳まで働くことを推奨している。市も80歳まで働ける環境づくりを進めてほしい。
 ⇒ ぜひ実現していきたい。

快適で魅力あるまち

● 袋井駅と浅羽支所が拠点となっているが、笠原地区はそこまでの交通手段が課題。免許返納後の高齢者の移動手段が重要。メローバスも利用し易くしてほしい。
 ⇒ 高齢者の移動手段が減っており、メローバスも見直しているが、満足できるところまでできていない。ライドシェアなど新たな地域交通のあり方も検討したい。

市民がいきいきと活躍するまち

● 詳細な計画、具体的な話がないと話し合いにくい。
 ⇒ 今日はキックオフミーティングの位置づけ。今後、必要な情報を必要な方々に提供をしながら進めていく。
 ● 計画を作る時の理念として『これから地域を担う若い方々が元気よく、暮らしがいを持って住めるようなまちづくり』が大切だと思う。
 ⇒ 50年後100年後を見据え、若い人が活躍できる地域づくりのための計画として策定していきたい。

安全・安心に暮らせるまち

● 三沢川が台風15号の際に警戒水位まで10cmになった。浚渫などは土木事務所が担当だと思うが、市でも対応を検討してほしい。
 ⇒ 三沢川は県管理であり県に対して要望していく。浚渫や草刈りを行い、河川の持つ機能を果たせるようにしていく。
 ● 砂利の堆積や葎が生い茂ったり氾濫の危険がある。
 ⇒ 浚渫だけでなく河川の川幅を広げたり、排水機能を整備するなど市内で順次行っていく。
 ● 三沢川のハザードマップはどうなっているか。
 ⇒ 県作成のハザードマップは本年3月に県ホームページで公表されている。今後、市内の他の河川との重複部等調整し公表する。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 浅羽北地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月26日(土)10時~11時40分
場所	浅羽北コミュニティセンター【参加人数:30人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



「ご意見・ご提案」用紙から

- 計画に対する成果が、定量的な方が分かりやすい。挨拶と説明時間のバランスに配慮。
- 諸井自治会内の小学生の通学ルートを、安全・安心の視点で見直して欲しい。
- 浅羽支所を活用したあそびの杜の計画推進の再考をお願いしたい。
- 温室メロンの担い手不足と高齢化、今後の空き温室等の利活用の検討。浅羽中までの避難路の橋梁の耐震診断等の対応をして欲しい。
- 馬伏塚城の御城印の製作について提案。

●**当日の意見交換の主な内容**（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

安全・安心に暮らせるまち

- 防災訓練での安否確認のやり方が良くない。浅羽北地区では「黄色いタペストリー掲出」の取組をおこなっているが、所感を聞かせてほしい。
⇒防災時には、安否確認、初動体制が重要。デジタル技術の導入も検討しているが、アナログ手法との併用を考えている。地域独自の取組をしていただき感謝している。ハンカチ形式など、他地域での取組もあると聞いている。
- 浅羽北地区の「黄色いタペストリー」の配布は、自治会加入者のみ。市内への転入時に配布するなど市全体で導入してほしい。
⇒自治会未加入者への対応や、市全体となるとコスト的なことも含め、ご提案が可能かどうか担当課で検討してみたい。
- 防災面では、防潮堤や命山などインフラ整備の進捗を感じているが、要支援者の避難対応などソフト面での整備についても検討する必要がある。
⇒地域でも要支援者の台帳があり、対応を検討してくれていると思う。地域の力を借りながらソフト的な対策もしっかり整備していきたい。
- 消防団の運営費用が少ないと聞く。市からももう少し費用を工面してもらいたい。
⇒3年程前から待遇改善（報酬の直接払い）をしてきた。現在、消防団のあり方を検討しているので、推移を見守り行政の出来ることを支援していきたい。
- ゲームアプリに使用されているジャイロセンサーの導入は、災害時の安否確認に良いと思う。アプリの開発は、災害時や高齢者の見守りにも役立つと思う。
⇒アプリの開発業者から製品紹介の機会等あるので、良いものがあれば新しい技術を取り入れていきたい。

市民がいきいきと活躍するまち

- 私は40代だが、市の未来を考える今日のような会へ、若い世代の参加が多くなる取組が必要ではないか。
⇒若い世代や女性の参加が少ない。地域の皆さんの力もお借りして声かけし、幅広い人たちと意見交換をしたい。
- コロナ後の祭典は、子どもや親世代が集まってコミュニティが賑わいを回復している。
⇒今年はコロナ終息後初の制約なしの祭典が開催された。地域コミュニティの維持に祭典の価値が改めて認識された方も多かったと思う。

市からの説明資料について

- スライドが見えにくく、現行計画の評価、成果や課題等もわからない。資料の改善をしてほしい。
⇒本日はキックオフとして市からの報告を中心に資料を作成した。説明資料は抜粋版でわかりにくい箇所があったことをお詫びする。
計画の評価は毎年度行い、市議会への報告やホームページ等で公表している。計画期間10年の5年目にも見直しを行い後期計画に反映し、策定している。現行計画全体の評価や課題の抽出は、現在、総合計画審議会等で行っており、公表する予定。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 山名地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月27日(日)10時~11時40分
場所	山名コミュニティセンター【参加人数:42人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

安全・安心に暮らせるまち

- 不審者情報が多発している。主要道路への防犯カメラの設置に加え、警察と連携し、今まで以上にスピード感をもって市民に伝えてほしい。
⇒フェイク情報等もあり、確認してから情報発信している。今後も、警察と協力しスピード感ある情報提供に努める。また、被害に遭いやすい子ども達に対しても、情報提供を出来るように調整しており、実現に向けて取り組んでいく。
防犯カメラについては、国や県の補助金など費用負担を含め検討したい。
- 災害時に軽トラックを持参してのボランティアが可能。登録や協力が簡単にできるシステムを望む。
⇒災害時は、ボランティアセンターが立ち上がる。登録や保険が必要になると思うが、誰もが使えるようになる。
- 集中豪雨が多いので、中小河川の氾濫が心配。
⇒市には各種のハザードマップがあるので、住んでいる地域のリスクを確認し把握していただきたい。河川改修等のハード整備には限界もあるので、ハザードマップを活用した早めの避難も重要となる。

快適で魅力あるまち

- 他県の友人が、浅羽海岸の夕日（日の入り）が美しく感動していた。一方、昨日、浅羽海岸でイベントを行っていたが、参加者が少なく残念に感じた。
⇒海岸に駐車場が整備されるので、海の魅力を満喫し、袋井の魅力を感じ、楽しんでいただきたい。イベントの告知やPRなども含め、盛り上げに協力していきたい。
- 現在も物流産業が多い。新たな道路整備により、以前は通らなかった道を大型トラックが通り、舗装の劣化や歩道がない箇所では危険が増す。車両の動線を考えた道づくりをしてほしい。
⇒現在も大型車の通行規制はあるし、道路の補修・補強も行っている。また、議会の質問でもいただいている。様々な配慮をしながら企業の誘致と安全の確保が両立できるよう課題をクリアしていく。

市民がいきいきと活躍するまち

- 転入時に自治会への加入を促進してほしい。
⇒市から自治会の加入の案内はしている。より一層、加入促進に向けて対応をしていく。
- 小規模自治会存続の為、現状の把握と支援を望む。
⇒自治会維持や負担削減、運営を続けられるように対応していく。
- 自治会で、市から委託されていると思われる草刈りを市に返したい。
⇒市の委託ではなく、自治会の河川愛護活動の取組みに報奨金を支払っている。市の負担を50%まで拡大させることを目指し対応中。少しずつ増やし、地域の負担を減らしていく。

子どもがすこやかに育つまち

- あそびの柱に、子どもが遊びながら防災を学べる施設を作ってほしい。
⇒スペースは限られているので要望として伺う。現在も防災拠点施設であり、機能としては残す。学びにつなげられるようにしていきたい。

「ご意見・ご提案」用紙から

- 第2東名から国道150号までの4車線以上の道路整備による更なる交流と活性化。
- 森町袋井インター通り線の早期開通と、北部地域の活性化。企業誘致と積極的な定住・移住の促進。上山梨・下山梨地区の土地区画整理事業の推進。休耕田・畑の解消と農業従事者の誘致。
- 地区の少子高齢化対策の為、農地転用による人口増加策と企業誘致による地域活性化。
- 宇刈橋付近の流木除去等流下能力向上対策。
- 災害拠点施設の設備の充実。市道への防犯カメラ設置。豪雨対策。歩道・公園の適切な管理。交通安全のほり旗等の設置の再考。自治会の会議の削減や業務の軽減策の検討。

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 高南地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月27日(日)13時30分～15時15分
場所	東海アクシス看護専門学校 体育館【参加人数:21人】
内容	1 開会
	2 まちづくり協議会/会長あいさつ
	3 市長あいさつ
	4 報告事項
	(1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答
	5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など
6 閉会	



「ご意見・ご提案」用紙から

- いつでもどこでも書籍に触れられる環境をつくる「まちじゅう図書館」の取組は素晴らしい、あわせて「郷土資料の保存」「所蔵機能の充実」の2つを充実させて欲しい。
- 能登半島地震から10か月、早期に日常生活にもどれるようにするための事前の復旧復興計画が必要と強く感じる。
- 浅羽支所内にある「茶文化資料館」を、法多山など県外からも人が訪れる場所を活用し、お茶の袋井をPRしたらどうか。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

安心・安全に暮らせるまち

- 高南地区は水害対策が第一課題。早期に前倒しで行ってほしい。
⇒常に認識している。注力していく。
- 耕作放棄地対策を行い、川の上流で水を貯められるようにしてほしい。
⇒治水対策を最優先に考え、引き続き情報交換をしながら進めていきたい。
- ポンプ場ができるまでの間、通水断面確保のため水路の除草浚渫を年に2回は行ってほしい。地域も協働する。
⇒地域との協働は、力強く思う。除草浚渫の対応が年に何回出来るか約束はできないが、必要な対応をしていく。
- ポンプ場が止まらないように、定期的に点検してほしい。
⇒前回停止の原因と止水壁の設置は完了している。定期点検は実施していく。
- 水害に対して、安心安全の宣言をしてほしい。
⇒高南地区の治水対策に加え、流入先となる太田川の下流の浚渫や河道拡幅も国県に要望しているところ。ポンプ場の整備の暁には、安全宣言ができるよう取り組んでいく。地域のお力添えも引き続きお願いしたい。
- 山崩れによる水害の心配がある。
⇒様々なリスクが考えられるので、リスクを排除できるところから進めていきたい。

市民がいきいきと活躍するまち

- デジタルを活用した情報発信や交換をしたい。デジタル化に際し、住民がスキルアップが出来る行政窓口を作ってほしい。
⇒デジタル化のスキルアップや情報格差を縮小していきたい。また、使いやすいアプリの選択、多くの方に情報発信ができる仕組みづくりをしていきたい。

子どもがすこやかに育つまち

- 部活動が地域移行する中で、活動内容や運営方法を教えてください。
⇒地域移行が順調に進むように、教育委員会に専門部署を作って対応中。活動によってケースバイケースの対応になる。地域が受け皿となって運営できるよう一緒に考えて欲しい。

快適で魅力あるまち

- 大和ハウス工業の跡地の利用の話があったが、どうなっているか知りたい。
⇒まずは、土橋地区への工場の移転をスムーズに行うことに注力している。
- 袋井駅の南北出口、市民から募集した秋葉口・駿遠口の名称を使用してほしい。
⇒名称には意義があり価値のあること。状況に応じ、積極的に使用していく。

健康長寿で暮らしを楽しむまち

- 介護保険制度の改正で、和らぎの湯のデイサービスが利用できなくなり困っているという声や、支援が必要な方が、支援サービスの時間が短縮され困っているという声があった。
⇒和らぎの湯のデイサービスは、11月から利用できるようになると承知している。また、サービス時間の短縮は、認定の 카테고리を再確認していただきたい。介護認定に課題があるのかもしれない。困りごとや詳細については対応していくので、行政に相談していただきたい。